これが“戦時”だ!!

「8月」を前に…
またあの戦争を記憶に

戦時版新聞

全3巻

残部2組

（2024.7）

原寸復刻

毎日新聞 **戦時版**　創刊：昭和19年3月1日～終刊359号：昭和20年3月31日

（大空社 1993年復刻）

「今や前線、銃後の差別はない。…増産は直接農村や工場に働くものばかりでなく、全国民の責任である。」

平和の意味を問い、伝えるための戦時版新聞

一九九三年八月　羽島知之（新聞資料ライブラリー）

昭和十六年十二月の太平洋戦争勃発以後、わが国の新聞事情は大きく変革していった。戦時国内体制が進む十七年二月には、新聞の統制機関としての日本新聞会が政府の指導のもとに設立された。内閣情報局は七月に全国新聞社の整備統合の方針を発表、一県一紙制を実施し、一、二〇〇社近くあった日刊新聞はわずか五十四社に圧縮統合させられた。

十七年秋には南方の軍政地域で日本語新聞を発行するよう軍当局の要請があり、朝日がジャワ、ボルネオ、香港、毎日がフィリピン、読売がビルマとセラム、同盟がマレーを担当、十八年一月から各地で創刊された。

十八年十二月には大手五社間で、戦時災害を被り新聞発行が不能に至った場合の印刷代行、共同新聞の発行など、非常事態に対する「相互援助協定」が結ばれた。十九年に入ると新聞用紙の生産はガタ落ちし、各社とも朝夕刊セットの発行をつづけることが困難となり、全国いっせいに夕刊廃止にふみ切られた。

各社が個々に号外を発行することも、それ以前から日本新聞会が禁していたが、夕刊もなくなり緊急事態にそなえ十九年五月には、政府の「要請」か「承認」があった場合にのみ、当番社が「共同号外」を発行するという国策が講じられた。

このような状況下で特筆されるのは、昭和十九年三月一日の「戦時版」の創刊である。日本新聞界は情報局と協議の結果、国家総力戦体制によって、工場、鉱山、農・山・漁村などで働く、産業戦士を対象とした読みやすい小型新聞を発行し、あわせて用紙事情から窮屈になっている日刊新聞の購読需要を緩和させようと大手新聞社に要請した。

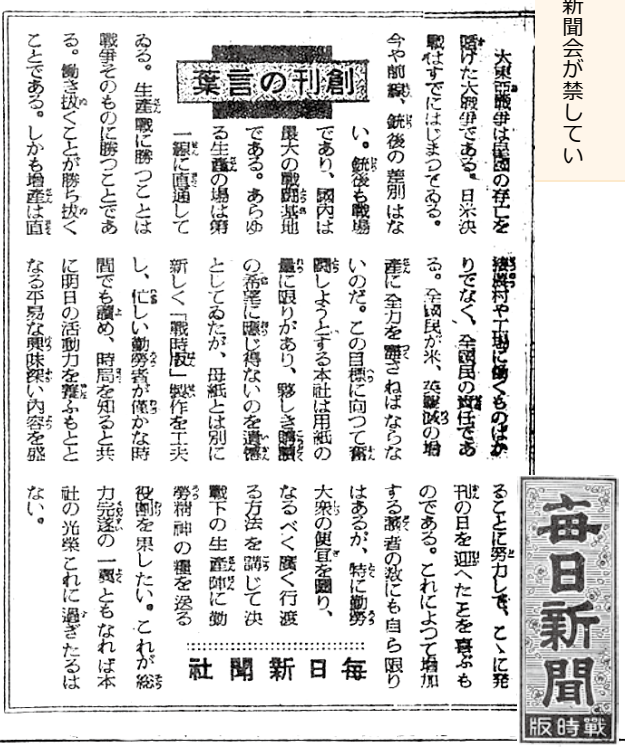
一九年二月中旬この要請に応じたのは、「毎日」、「読売」、「中部日本」、「大阪」、「西日本」の五社であった。新聞の体裁は各社とも同じタブロイド判四ページの日刊紙で、定価は一カ月七十銭。

戦時版の人気はよく、創刊時の発行三万二千部は、翌二十年三月下旬には九万三千部と三倍に伸びたが、政府の「新聞非常体制暫定措置」実施に即応して、三月三十一日限りで廃刊した。なお戦時版の割当用紙の二分の一担当を本紙用として追加供給を受け、戦時版の月極め購読者に対しては本紙をもって代替する措置が講ぜられた。

しかし二十年には戦局も一段ときびしくなり、用紙事情もさらに困難をきわめ、四月一日、一年一カ月で「戦時版」のすべては短い歴史を閉じている。

創刊から終刊までのどの一紙をみても、記事から広告、連載小説やマンガ、俳句や川柳など文芸に至るまで、すべてが戦時一色、生産戦士に贈られた「紙の弾丸」（紙弾）といっても過言でない。老若男女を問わず銃後の国民のすべてを戦争に狩り立てるための紙弾としての「戦時版」は、戦争とは何かを問い直し、あらためて平和の意味を理解する上で極めて貴重なナマの資料である。

昭和19.3.1 第1号より⇒



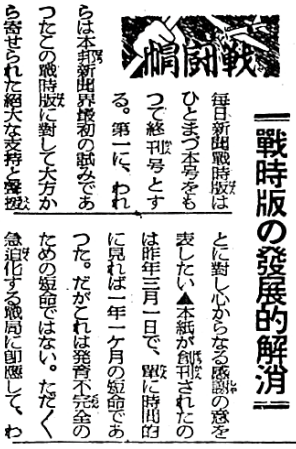
創刊の辞

大東亜戦争は皇国の存亡を賭げた大戦争である。日米決戦はすでにはじまっている。今や前線、銃後の差別はない。銃後も戦場であり、国内は最大の戦闘基地である。あらゆる生産の場は第一線に直通している。生産戦に勝つことは戦争そのものに勝つことである。働き抜くことが勝ち抜くことである。しかも増産は固定的な農村や工場に働くものばかりでなく、全国民の責任である。全国民が米、英撃滅の増産に全力を傾注しなければならないのだ。この目標に向つて奮闘しようとする本社は用紙の量に限りがあり、夥しき需要の希望に應じ得ないのを遺憾としてるたが、母紙とは別に新しく「戦時版」製作を工夫し、忙しい勤労者が僅かな時間でも讀め、時局を知ると共に明日の活動力を養ふもとになる平易な興味深い内容を盛ることに努力しつゝ、こゝに発刊の日を迎へたことを喜ぶものである。これによつて増加する読者の数にも自ら限りはあるが、特に勤労大衆の便宜を圖り、なるべく廣く行渡る方法を講じて決戦下の生産陣に勤労精神の糧を送る役割を果したい。これが総力完遂の一環ともなれば本社の光榮これに過ぎたるはない。

毎日新聞社

毎日新聞戰時版は毎日ひとまつて本号をもつて終刊号とする。第一に、われらは本邦新聞界最初の試みであつたこの戰時版に對して大方から寄せられた絶大な支持と聲援とに對し心からなる感謝の意を表したい▲本紙が創刊されたのは昨年三月一日で、單に時間的に見れば一年一カ月の短命であつた。だがこれは発育不完全のための短命ではない。ただく急迫化する戰局に即應して、われら言論報道陣も高戰闘力する必要を認めたからである。最小の資材を以て最大の效果を発揮することが、新出発についても當然要請されたから▲簡明直截に内外の情勢を解説する、それによつて軍需増産と食糧増産に挺ばる人々の士氣を高めつゝ、そこに最大の眼目を置いた本紙の使命は、戰闘上の成功を收めたと確信する。だから紙さへあれば戰闘の續くかぎり本戰時版もまた引續き刊行してその使命達成に邁進すべきであつた▲本紙は一應終刊となるが、戰時版の総体的なありかたと編輯方針とは、今後の毎日新聞によつてうけつがれるであらう。戰局は益々苛烈となり、本土戰場化の場合へ考へねばならぬやうに發展して來た▲言論報道陣も益々この戰局の急速な展開につれて、内容、形式ともに一層決戦的なものにならねばならない。それはとりも直さず、一般新出発を名実共に戰時版化することだ。これはわれらの戰時版を基礎として我田引水的の論法を弄するのではない、少くとも戰局の現勢について見れば、右のやうな結論に到達せざるを得ないのだ。その意味で、本戰時版の終刊は本土決戦態勢に即應する新版的解消ともいへる。戰局がわれに有利に展開しかもなほ戰闘が續くといふことであれば、本戰時版もまた再刊され、再び愛讀者諸君に見ゆる機會が必ず到來するものと信ずる。

⇓昭和20.3.31 第359号より



戰闘

戰時版の發展的解消

戰時版新聞　全3巻

［大空社 1993.8 復刻］タブロイド判・上製

4-87236-845-2

定価（本体 48,544 円＋税）

残部2組

学術資料出版

大空社出版

www.ozorasha.co.jp

eigyo@ozorasha.co.jp

TEL:03-5963-4451　FAX:03-5963-4461

東京都北区中十条 4-3-2（〒114-0032）

毎日新聞 戰時版
發行所 毎日新聞社
東京市麹町區有楽町一丁目一番地
電話 代表 二三一〇 内線 二三一一 二三一二
振替口座 東京 二〇〇八番

英印軍の大半を殲滅

印度國民軍も大働き

大本營發表(二月廿九日十七時) 一、二月九日以降英印軍第七師團主力を「ブチドン」西北方「シンゼイワ」谷地附近に包圍殲滅中なりし緬甸方面帝國陸軍部隊は二月廿四日迄にその大半を殲滅し目下一部を以て殘敵を掃蕩しつゝ、更に爾後の作戦準備中なり

二、印度國民軍も亦我と協力大なる戦果を擧げつゝあり

勝つための政府の非常政策

「決戦非常措置要綱」は去る二月廿五日に政府から發表された戦時政策で数の十五であるが、このうちの第七が五日から、第八、第十三、第十四の三つは一日からそれぞれ実行されることである

お役所の休みは 一週間に一回

出張もなるたけ制限

生徒をこの一年勤勞その他の非常任務につかせること

非常措置の要綱

一、中等學校以上の學生生徒をこの一年勤勞その他の非常任務につかせること

二、家庭の人以外の女子を挺身隊に強制加入させるなど國民勤勞をもつと徹底的に行ふこと

三、防空を完全にするため疎開を一層徹底させまあり電燈のない役所やクラブ、飛行場などを強かに增加しうつすこと

四、生活をなるべく質素簡單にすることと食糧配給をもつとよくすること

五、空地はなるべく食糧增産のため利用すること

六、製鐵業上の原目の電鑛をもつとひろげ、大きさや形はなるべく同じにすること

七、高級料理店、待合は休業させ、また高級料理のものは一時閉鎖させること

八、旅行を徹底的に制限し、その代り必要物資や疎開用の機材をやすやすと運搬させること

九、鉄道の機材をもつと増加するため必要な手だてをすること

十、戦時にはいらないやうな、そして長い年月かゝるやうな仕事や計画は一切やめること

十一、いままで中央の役所でなければ許可されなかつたやうなことともこの一年はなるべく地方々々の陳聽などで用が足りるやうにすること

十二、測候所や檢疫所の仕事を出來るだけ早く待ふやうにすること

十三、役所や會社で保存してある品物は、必要なものはとしとし廻通し合ふ、いらない古い書類などはまつ四つのことがきまつたが、そのうちわけく一般國民に關係のあるのは「高級享樂の停止」である、劇場や映畫館、料理店、待合、カフェー、バーなどで高級なものは向う一年休業させるというもので、來る五日から實施ときまつた、東京都だけで昨年度の營業總額は二億五千六百六十九万余円、劇場、映畫館の入場料六千四十万余円、合計二億余円といふ大金がつかはれ、仮に劇場一人當廿円として、百万人、戦闘機一機十万円として二百機の飛行機がつくれるだけの金額である

十四、國民の休日は二週間に一回として一層仕事の能率をあげること、また出張などやたらにしないこと

十五、官廳の休日は二週間に一回として一層善い事は賞し悪い事は罰するといふことを徹底的にやり、また政策実施にあたつて不公平なことをすること

なさは捨てしまふこと

十六、製鐵業上の原目の電鑛をもつとひろげ、大きさや形はなるべく同じにすること

つまり

高級な享楽をやめさせる

一年の無駄が二億五千萬圓

高級な劇場や映畫館も

中等學校の願書受附始まる

東京都下の本年第一回中等學校入學願書受附はいよいよ今日から七日までである、今年は公立中學校はいづれも綜合考査制が採用され、それに伴ひ、學校が新たに募集してゐる、學校の選擇については、距離の遠いところはさけることが第一である、第一回の受附は十五日から廿四日までと決定

廿三機を撃墜破す

ラバウル來襲の敵機

【ラバウル特電廿九日發】廿六日朝二回に亘つて敵の艦載爆撃機、戦闘機など延べ百五十四機がラバウルに來襲したが、同島にあるわが部隊は敵機二機を撃墜し、ついで廿七日朝にも敵は艦載戦闘機など延べ百五十八機をもつて二回にわたり攻撃を反復、わが部隊は艦載爆撃機九機、戦闘機三機計十二機を撃墜、撃墜五機、戦闘機二機計七機を撃破した、わが方いづれも損害なし

ヤルート島マーシャルにも來襲

【中部太平洋〇〇基地特電廿九日發】廿四日午後敵の大型爆撃機延べ十七機が數回にわたつてマーシャル諸島ヤルート島に攻撃を加へて來た、同島所在のわが部隊は熾烈な對空砲火を浴せてその二機を撃墜した、わが方地上に多少の損害があつたのみ

ブカ島でも三機撃墜

【南太平洋〇〇基地特電廿九日發】廿五日午前、午後にかけ敵の艦載機延べ十三機が數回にわたつてブカ島に來襲したが、わが所在部隊はその三機を撃墜した、わが方損害なし

葉言の刊創

大東亜戦爭は國家の存亡を賭けた戦爭である。日本決戦はすでにはじまつてゐる。今や前線、銃後の區別はない。銃後も戦場である。國内は果て戦場である。あらゆる生産の場は第一線に直通してゐる。生産戦に勝つことは戦爭そのものに勝つことである。勉め抜くことが勝ち抜くことである。しかも増産は直ちに戦力に直結してゐる。全國民が、産業戦の増産に全力を擧げねばならないのだ。この目標に向つて奮闘しようとするわが社は用紙の量に限りがあり、夥しき讀者の希望に應じ得ないのを遺憾としてゐたが、母紙とは別に新しく「戦闘版」製作を決し、忙しい勤務者が僅かな時間でも讀め、時局を知ると共に明日の活動力を養ふもとになる平易な興味深い内容を盛る。遠隔村や工場、鑛くものはもとより、全國民の要望をあるべく廣く行渡る方法を講じて決戦下の生産陣に働く勤勞神の魂を盛る役割を果したい。これが總力発揮の一端となれば本社の光榮これに過ぎたるはない。

毎日新聞社

高級な劇場や映畫館も

滿洲國の建國記念日

けふ十二周年の式を行ふ

【新京特電廿九日發】昭和六年九月十八日機械事変起り爾来七年三月一日滿洲國三千万民衆は共意によつて建國、國旗を滿洲國と定め、同九年三月一日に建國皇帝陛下が帝位につかせられ、滿洲帝國紀元が時から十二周年にあたり、首都新京をはじめ、大東亜戦爭に滿洲國が非常に協力をしてゐることはいふまでもなく、この紀念日を迎へ上下いよ〳〵心を一にして日本の勝利のため邁進することを誓つてゐることはたのもしい限りである

一般の會社も日曜を返上

廿九日の閣議で官廳はけふから日曜日休みをやめて二週間に一回、日曜日に出勤して休みをとることとし、役人の出張も出來るだけやめることにきめたが、この決定に對し、東京都商工經濟會では、日曜日返上は各工場ではすでにやつてゐることであるから、一般會社もこれにならつて「隔週に休日なし」と日曜日返上を決定した

日立茨城號獻納式

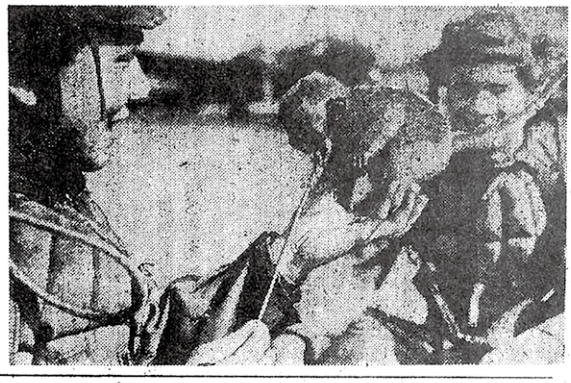
第三日立茨城号(鑛上嚴國機)の獻納命名式は二月四日午後一時半から日立市日立會館で挙行され代理並に委員長鑛業人部部長三浦長重、廣大佐ほか官民代表多数出席の下に祖式によつて挙行される

職業指導所改名

決戦戦力増强への重要使命に活躍して來た職員職業指導所が今一日から「國民勤勞職員所」と改名することになつた

印度洋潜水艦水戦實映畫
轟沈
撃墜か死闘 敵を誘し、敵圏内に肉薄する烈々たる潜水艦魂！この苦闘と戦果に酬ゆるは今ぞ！たゞ一路現場へ！
●撮影 海軍報道班員
(日映特派員)
●製作 社團法人日本映畫社
完成迫る

戰鬪機



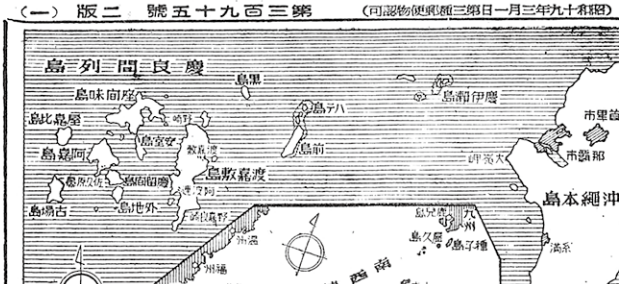
最前線のひとゝき 大戦果のあとで敵機を打ち破つて基地に帰つてゐた小隊に「やあお帰も頑張が」とポツと一息したその時……南方〇〇基地にて 古川(海軍報道班員)(本社特派員)撮影 海軍省許可済第四三号

残部2組
(2024.7)
●創刊号 昭和19年3月1日より
◆復刻版はタブロイド判（約275×405ミリ）です。

（一）版二號三百九十五第　（司認物便郵種三第）昭和十年一月三日　（日曜土）　昭和二十年三月三十一日　紀元二千六百五十年　（日刊）

毎日新聞
戦時版
所管　毎日新聞社（東京）
東京都千代田区有楽町一丁目一番地
電話代表　人事課（内線）
（二三四〇）
（〇〇八二）
東京市日比谷公園
郵便番号
東京都千代田区
電話
（月曜）一七（日入）後六・〇一（あす日出）朝五・二九（月出）後八・一六（月入）朝六・五五
暑さ寒さも彼岸まで
とは言はれます春のやうにもと
香取秀眞

沖縄本島



艦砲射撃激化して
敵愈々上陸の氣配
輸送船團も亦近接

南西諸島沖縄本島に對する敵米軍の上陸作戰はいよ〳〵本格化して來た、敵が廿五日慶良間列島に兵力進出を開始してから四、五日の間慶良は南西諸島への新たなる直撃基地を上陸控へ目にとゞめ、表面には機動部隊を九州、関西近海に進出から艦上機をもつてわが航空部隊の南西諸島撃滅への集結を妨害しつゝあつたが、その裏面において着々沖縄本島への本格的上陸作戰を進め、いよ〳〵その開始は目前に迫つた感がある、即ちその一つの兆候として敵が目指す沖縄本島への艦砲射撃は日を逐つて激化しつゝあり、廿五、六日頃一日平均約五、六百發であつた艦砲射撃は廿八日には約二千發に激増、廿九日に至るや約七千發に上つて敵が二ヶ月間慶良島上陸開始に備つて展開した艦砲射撃の攻撃がその最盛期においてもまた遜色なきまでに達したことを如実に物語る

第二にその艦砲射撃とともに敵の相當數の輸送船團はウルシー泊地、レイテ島等を發してより機動部隊、艦艇群の進が後方に潜んでゐたが、極く最近においてはいよ〳〵沖縄本島慶良間列島東南方海面附近に近接し來たものの如くである、更にまた敵の機動部隊主力は廿五、六日まで南西諸島附近海面に進出してゐたが廿七、八、九日には九州、関西附近海面に進撃を轉じ、卅日に至るもなほ本土近海を游弋しつゝある模様であるが、この行動はまた新たな攻勢を企図することを物語つてゐる、かゝる如く艦砲射撃の結果と輸送船團の近接は沖縄本島に對する敵上陸作戰の近接を暗々々裏に物語つてゐるが、これに對しわが航空部隊及び水上部隊、特に必死必殺の特攻飛行隊は既に發表せるものだけでも敵艦撃沈廿八隻、大破炎上また廿隻に垂んとする戰果を擧げつゝも、今や敵本格的上陸作戰逼るに當りいよいよ勇猛の攻撃を敵艦船に浴びせかけ相當な戰果を收めつゝあり

滿を持すわが精鋭

南西諸島に布陣するわが精鋭は遂つて激化する敵の艦砲射撃と部隊は敵の本格的上陸作戰の近接を暗々々裏に物語つてゐるが、これに對しわが航空部隊及び水上部隊は敵の本格的上陸開始を待つて士氣いよ〳〵旺盛、徹底的撃砕を今や遅しと待ち構へ、いよ〳〵勇猛の攻撃を敵艦船に浴びせかけ相當な戰果を收めつゝあり

今ここそ神機だ
我懷ろに飛込んだ敵

【南方基地卅日屋田（通）特電】敵の沖縄攻撃は果して開始された、那覇市の西方約五マイルの海上にある慶良間諸島に上陸し敵の次の狙ひが沖縄本島にあるとは今や明かだ、敵の長駆はもはや伸び切つてゐる、敵の物量を駆使し得る一線がそこにある、南西諸島は九州、支那の防衛及び台湾の防衛なかんずく南西諸島の上陸は敵の物量攻撃の出撃開始にいまだ再び彼我の力量なかんずく物量力を顕現する絶好の機会を与へたのである、南西諸島は約二千万トンの物量を使用し得る船腹を有するのである、五十八機動部隊はこの物量をもつてしてもなほ不足であるとの理由から西方ロリン諸島、ウルシー、モロタイ等の各基地を利用してその長駆攻撃に要する船腹は約六百万トンとなられる、ハワイ、ミッドウェイ、ジョンストン、ウェーキ、ガダルカナル、ニューギニア、ビスマルク、ソロモン諸島、ウルシー、モロタイ等の各基地の敵の本拠攻撃に使用し得る